アジア歴史資料センターを活用する意義

多国籍の教室で**日本近現代史**を教える教養科目「歴史学」を前提として

山梨学院大学法学部　小菅 信子

約10年前の寄稿から



現在の泰緬鉄道（タイ側）を歩く

私は、第二次世界大戦の終結から70年を経たいま、ジャックさんが述べたように、「目で見ることの出来る戦争の記録という遺産によって、万人共通のあわれみの気持ちが湧き起こり、若者たちが自分たちも次の世代に何を残せるか責任を持つ」ことを願い、ジャックさん自身が若い頃に命をかけて残した記録画をアジア歴史資料センターを通じて紹介したいと思います。

» チョーカー氏の記録画はこちらからPDF形式の画像でご覧いただけます（65.9MB）«

おもな参考文献

小菅信子『ポピーと桜』、岩波書店、2008年。

ジャック・チョーカー「経験・記憶・和解」小菅信子編著『原典でよむ 20世紀の平和思想』、岩波書店、2015年。

小菅信子「英軍俘虜・抑留者」東郷和彦、波多野澄雄編著『歴史問題ハンドブック』、岩波書店、2015年。

小菅信子「泰緬鉄道の捕虜収容における捕虜軍医の医療活動」『軍事史学』第49巻第4号、2014年3月。

小菅信子「泰緬鉄道の日本軍捕虜収容所における腐敗、即興、再生」、小菅隼人編著『腐敗と再生』、慶應義塾出版会、2004年。

黒沢文貴、イアン・ニッシュ編著『歴史と和解』、東京大学出版会、2011年。

小菅信子、ヒューゴ・ドブソン編著『戦争と和解の日英関係史』、法政大学出版会、2011年。

木畑洋一、小菅信子、フィリップ・トウル編著『戦争の記憶と捕虜問題』、東京大学出版会、2003年。

Dobson, Hugo and Nobuko Kosuge (co-eds), *Japan and Britain at War and Peace*, Routledge, London and New York, 2009.

アジ歴ニューズレター 第18号（2015年10月13日発行）
「アジ歴活用の現場から」

アジ歴活用の現場から

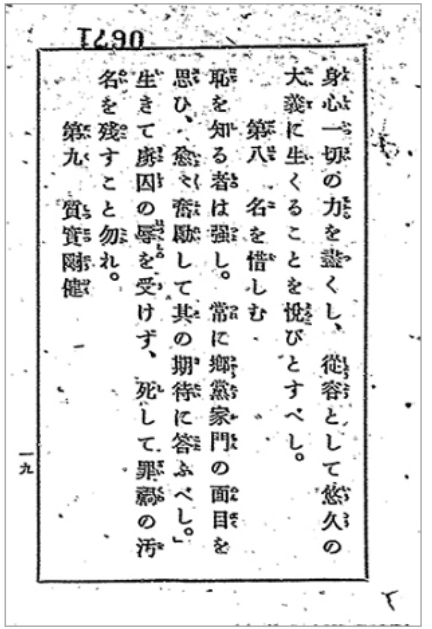
絵筆が記録した日本軍捕虜収容所　＜山梨学院大学　教授　小菅信子＞

私は大学で日本近現代史の講義をしています。生涯学習・社会教育の場でも、日本近現代史について話をします。世界中から留学生や社会人が、私の講義を聴きにきてくれます。あくまでも実証的に、原史料にもとづいてお話をすることを、私はとても大切にしています。ですから、国立公文書館のデジタルサイト・アジア歴史資料センターを、学生や聴講者のみなさんとともに利用します。地方で学ぶひとたちでも、無料で、常時、原史料を閲覧、コピーすることができますし、史料へのアクセスがとても簡単で、多数国語で構築されているので利用しやすいです。

終戦から70年、私は、アジア歴史資料センターのデジタル史料のなかに、「戦陣訓」を見つけました（レファレンスコード：C01005234000）。「戦陣訓」は、日本が英国と米国に宣戦布告した1941年の初めに公布され、「生きて虜囚の辱を受けず」で有名です。日本兵に捕虜となることを戒めた「戦陣訓」は、降伏した連合国捕虜の処遇を過酷なものにしました。

21世紀構想懇談会編『戦後70年談話の論点』（日本経済新聞出版社）に、慶應義塾大学法学部の細谷雄一教授が「20世紀の回顧と和解の軌跡―イギリスの視点を中心として」という論稿を寄稿しておられます。細谷教授が指摘されているように、太平洋戦争期の日本軍による英国をはじめとする連合国の捕虜処遇は、戦後日本と関係諸国の間で苦い記憶として疼き続けました。

英国は、連合国のなかでもっとも多い5万人余の将兵を日本軍に捕獲されました。そのうちの三分の二は、タイとビルマ（当時・現在のミャンマー）のあいだ、全長415キロの鉄道建設の現場で過酷な労働を強いられました。険しい山岳地帯、熱帯病の巣窟、日本軍の指揮のもと、アジア人労務者と捕虜が鉄道建設に従事しました。多くの犠牲者のうえにこの鉄道「泰緬鉄道」は完成しました。泰緬鉄道は、今日もなお、タイ側では走行し続けています。そこは遺族や友人たちにとっては巡礼地であり、また若い人々の歴史学習の地であり、かつ観光地でもあります。



件名：戦陣訓に関する件　通牒（25画像目）

約10年前の寄稿から

アジ歴ニューズレター 第18号（2015年10月13日発行）「アジ歴活用の現場から」

当時の講義で大切にしていたこと

- 日本近現代史についての教員・学生間での情報交換は比較的スムーズだった。
- **履修者はもっぱら日本人学生と、中国からの留学生少数で構成されており、アジ歴を活用することで一次史料にオンラインで直接あたり、日本近代史を実証的に学ぶことができた。画期的な出来事！**
- **地方大の大学生には東京の公文書館はひんぱんに通うのは無理。だが、アジ歴のおかげで、信頼性と同時代性の高い一次史料にいつでも無料アクセスできるようになった。**

寄稿で紹介した史料と記録

- 1941年公布の「戦陣訓」関係文書

  レファレンスコード C01005234000

- 泰緬鉄道建設に従事した英国人元捕虜ジャック・チョーカー氏の記録画
- チョーカー氏の同意と快諾を得て、アジ歴を通じて記録画の一部を公開

2026年　現在　グローバル化したキャンパスで

全学共通科目「歴史学Ⅰ・Ⅱ」
前期：歴史学概論5回＋日本近代史（開国・幕末～1920年代）
後期：歴史学概論１回＋ローカルヒストリー2回＋日本近代史（1930年代～72年頃）

552	約17%	32% / 1.5%
履修者（2クラス同一内容）	外国籍と推定される履修者	外国籍比率（クラスA / B）

外国籍履修者の多くは中国人、くわえておおよそ10か国以上。280名定員2クラス担当。学生の構成が年々グローバル化していくなか、**学修者本位の授業運営を行ない、教育の質を担保し、かつ公正な成績評価を行なうこと**が大前提。

2015年から2026年へ　アジ歴とともに授業改善

変わらないもの

- 史料にもとづいて実証的に学ぶ歴史学の方法の実践（実証性）。
- 無料・登録不要・いつでも史料を読める（アクセスビリティの良さ）。
- 同時代性・信頼性の高い史料が利用できること（史料批判）。
- 歴史事件の背景・遠景・近景・直接原因を解き明かし、学生個々がテーマを定め、「史眼」を育てることができる。

変わったもの

- ほぼ35～10年前の大学生のような「歴史事件の詳細まで説明しなくても『阿吽の呼吸』でわかる」という時代の終焉。
- **記憶研究については、「証言者の時代」から「代理の時代」への移行期へ。ここ10年間をどう設計するか！**
- コロナ禍をへて、大規模科目（約300~500名）のリモート授業化
- **アジ歴の歴史意識の変化：戦後資料公開が進行（当面は1972年まで）**

同時双方向型リモート授業の利点

対面授業にはない条件が、アジ歴の活用と噛み合う

1

全員が同じ史料画像を同時に見る

画面共有で、座席に関係なく細部まで同じ一画面を

2

その場でアジ歴を開く

各自の端末で検索・閲覧し、見つけたものを共有。予習復習の準備に最適。履修生の中には反転授業ができる学生も

3

発言の入口が増える

気軽にチャットで質問や気づきを出せ、対面で発言しにくい学生も参加しやすい

4

105分が「読み学び発言する時間」

解説と史料読解の作業を一コマの中で往復できる

リモート授業でも、教育する側も学修する側も使いやすい
著作権法上の縛りが厳しい動画などと異なり、文字史料中心で、特に、「アジア歴史資料ラーニング」は歴史教育用に設計されている

■第二次世界大戦
・概説
・アジア歴史資料ラーニング｜アジア歴史資料センター
・太平洋戦争80年 アーカイブスでたどる 終戦までの道　1941年｜戦争｜NHKアーカイブス

■「あの戦争」をどう呼ぶか？
・各国における戦争の「呼称」の相違

＊日本
1937年7月7日（盧溝橋事件）＝「支那事変」
1941年12月8日（対英米宣戦布告）＝1937年7月に遡って「大東亜戦争」と、閣議決定。
1945年9月（降伏）～実質的には米による対日単独占領期（～1952）＝米占領軍は「大東亜戦争」という呼称は欺瞞に満ちているので検閲対象に。かわりに「太平洋戦争」と呼ぶように指導。
とくに1980年代～＝「十五年戦争」「日中太平洋戦争」「アジア太平洋戦争」……「大東亜戦争」……　歴史観や歴史認識と逃れがたく結びついている！

＊中国
1894～95年（日清戦争）＝第一次抗日戦争
1937～45年＝第二次抗日戦争

＊米国
1941～1945年＝太平洋戦争

＊英国
1941～45年＝極東戦争 the Far Eastern War ・東アジア戦争・東南アジア戦線／戦争・対日戦争
ユーラシア大陸の東の端を「極東」と呼称。↔「極西」という語はない！

■終戦に関するアジア歴史資料センター公開資料のご紹介

料内容

昨年の失敗例

いまひとつうまくいかなかった事例……

今年（２０２６年）の改善例

①授業の到達目標にアジ歴活用をあげる

ラバス照会

印刷　添付資料を確認

期	2026年度後期	ナンバリングコード	IBL110
目名称	歴史学 II	開講言語	日本語
当教員	小菅　信子		
講学科	法学科／スポーツ科学科		
目群	人文・社会・自然科学	履修相当年次	1年
日時限	月曜1限	単位数	2単位
達目標	・時代の主要な転換点を、原因と帰結の連関として説明できる。 ・一つの出来事について、複数の社会・世代の記憶を並置して分析できる。 ・デジタルアーカイブ「アジア歴史資料センター」を利用して史料・原典にあたることができるようにする。		

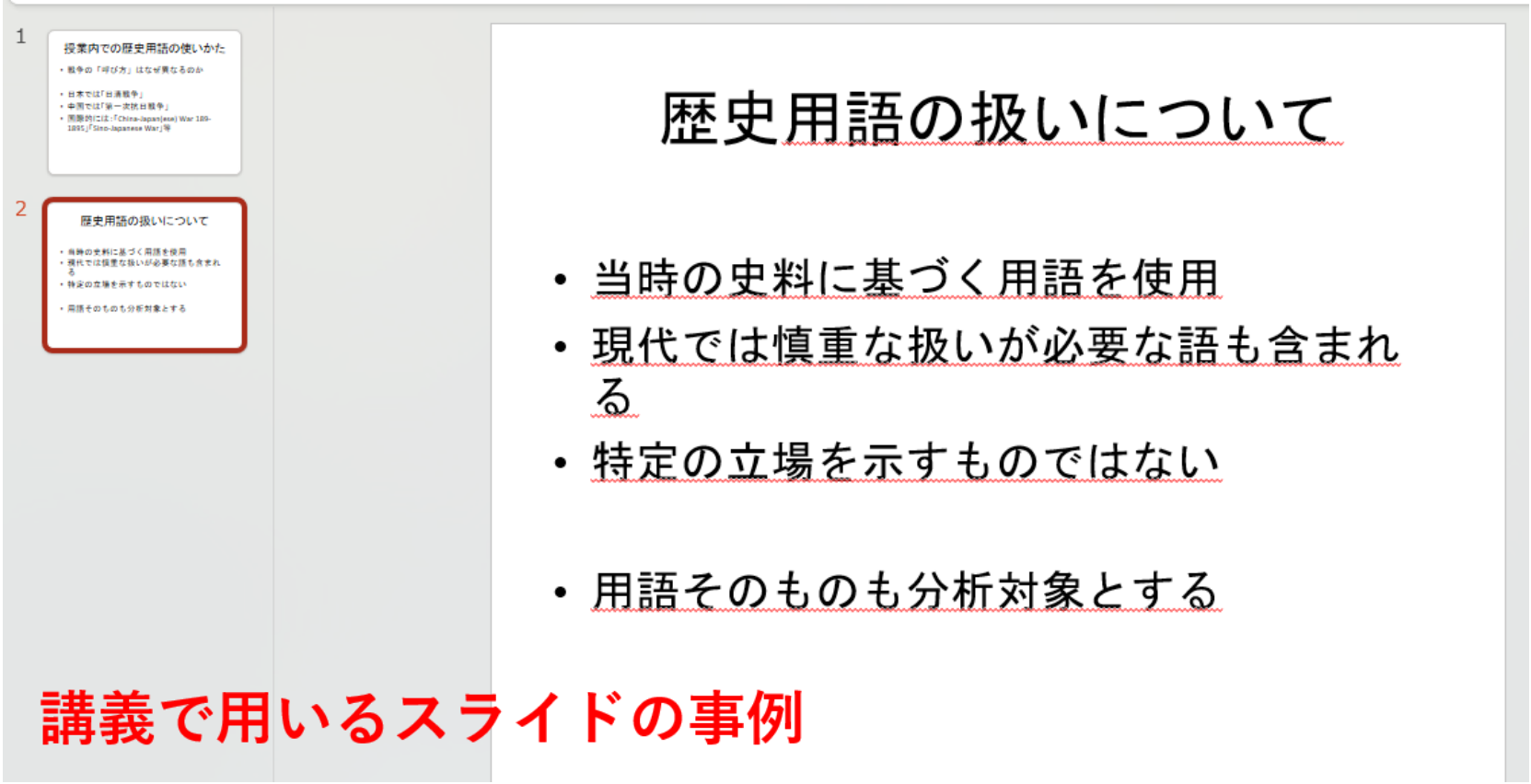
講義で用いるスライドの事例

INTRODUCTION

本日の論点

問い　**私たちは、いったい何を「歴史」だと思っているのか？**　— 歴史を知り・読み・書くための道具と作法を、順に確かめる。

1. 私たちは何から「歴史」を知っているのか
2. 歴史と歴史コンテンツ
3. アジア歴史資料センター（アジ歴）
4. 歴史用語
5. 時代区分
6. 原史料・原典を読む
7. 典拠を明記する


1
授業内での歴史用語の使いかた
戦争の「呼び方」はなぜ異なるのか
日本では「日清戦争」
中国では「第一次抗日戦争」
国際的には：「China-Japan(ese) War 189-1895」「Sino-Japanese War」等
2
歴史用語の扱いについて
当時の史料に基づく用語を使用
現代では慎重な扱いが必要な語も含まれる
特定の立場を示すものではない
用語そのものも分析対象とする
歴史用語の扱いについて
当時の史料に基づく用語を使用
現代では慎重な扱いが必要な語も含まれる
特定の立場を示すものではない
用語そのものも分析対象とする
講義で用いるスライドの事例

②アジ歴の成り立ちそのものを教材にする



講義で用いるスライドの事例

論点 03 — ①

アジア歴史資料センター（アジ歴）：設立の背景と目的

目的　近現代の日本とアジア近隣諸国等との関係にかかわる国の歴史資料をデジタル公開し、国内外の利用を促して、**アジア近隣諸国との相互理解を深める。**

1994

村山首相「平和友好交流計画」談話。戦後50年を機に、アジア歴史資料整備の必要性が示される。

2001

11月開設（閣議決定（1999年11月）に基づく）。国立公文書館の特別な機関（デジタルアーカイブ・センター）として発足。

2017

戦後資料の公開を開始（当面は昭和47年＝1972年まで）。対象がさらに拡大。

公開資料を保管する3機関（原資料はここに所蔵）

- 国立公文書館
- 外務省 外交史料館
- 防衛省 防衛研究所

出典：国立公文書館 アジア歴史資料センター（jacar.go.jp）

講義で用いるスライドの事例

講義で用いるスライドの事例

論点 03 — ②

アジア歴史資料センター（アジ歴）：使い方

1 **キーワード検索**
語句を入れて広く探す。まずはここから。

2 **詳細検索（標題・作成者・内容・組織歴）**
年代・所蔵機関などで絞り込む。

3 **詳細検索（レファレンスコード）**
Ref.コードで特定資料へ直行。再訪に便利。

4 **階層検索**
資料群 → 簿冊 → 件名 と辿る。

5 **辞書・表記ゆれ検索**
同義語・関連語・表記ゆれ条件を指定。

https://www.jacar.go.jp/ （jacar.go.jp） | 国立公文書館 アジア歴史資料センター

だれでも・無料・オンライン

「いつでも・どこでも・だれでも・無料で」画面上で閲覧できる。原資料は各機関で保管。国立公文書館の資料は同館デジタルアーカイブへリンク。

約3,400万
（約225万件／2026年3月）

見て学ぶコンテンツ

インターネット特別展／アジア歴史資料ラーニング／オンラインセミナー／社会科授業用資料リスト。日英対訳あり。ブラウザ翻訳可能（英・中・韓語等）。

講義で用いるスライドの事例

論点 04 — ②

歴史用語 — 国・地域による「呼称」の違い

同じ出来事でも、国・時代・立場によって呼び名が変わる。名前の選択には、その出来事をどう捉えるかという歴史認識が映り込む。

1931〜
満州（中国東北）をめぐる衝突

- **満州事変**
  〈日本〉
- **九・一八事変（9・18事変）**
  〈中国〉
- **Manchurian / Mukden Incident**
  〈英語〉

1937〜
日中の全面的な戦争

- **支那事変**
  〈日本・当時〉
- **日中戦争**
  〈日本・現在〉
- **抗日戦争**
  〈中国〉
- **Second Sino-Japanese War**
  〈英語〉

1941〜
より広い戦争へ（全体の呼称）

- **大東亜戦争**
  〈日本・当時〉
- **太平洋戦争**
  〈日本・戦後〉
- **アジア・太平洋戦争**
  〈近年の学術用語〉
- **Pacific War / World War II**
  〈英語〉

要点　**呼称は中立ではない。「事変」は宣戦布告を避けた当時の呼び方。戦後の「太平洋戦争」に対し、近年は戦域の広がりを含む「アジア・太平洋戦争」も。— 名づけは、時代区分＝歴史意識の問題でもある。**

講義で用いるスライドの事例

論点 05 — ②

時代区分の実例 — 1931→1972 をどう区切るか

満州事変（1931）から日中国交正常化（1972）までの約40年。同じ時間も、どこで区切るかで見え方が変わる。

1931	1937	1941	1945	1952	1972
満州事変	日中戦争	対米英開戦	敗戦	主権回復	日中国交正常化

戦争を軸に

戦前・戦中（帝国期） | 戦後

「十五年戦争」説

1931〜1945 を連続した一つの戦争と見る | （この立場では区分の外）

日中関係を軸に

断絶（戦争） | 占領 | 講和 → 正常化

区分は解釈である。 「十五年戦争」という括りも、1972を終点に置くのも、それ自体が一つの歴史意識 —— 中立の枠ではない。

講義で用いるスライドの事例

まとめ

1. 私たちが触れているのは、つねに〈媒介された過去〉である。
2. 歴史（検証）と歴史コンテンツ（表象）を区別して読む。
3. 歴史用語も時代区分も、便利な〈道具〉であり同時に〈解釈〉である。
4. 原典に立ち返り、史料批判を経て、典拠を明記する。

→ **これが「歴史学」の作法。**　アジ歴は、その実践に踏み出すための入口である。

WHAT'S JACAR? JACAR Newsletter

A digital archive connecting Japan and Asia

Japan Center for Asian Historical Records makes available to the public historical materials on modern and contemporary relations between Japan and its neighboring Asian countries. Digital images of official documents stored at the National Archives of Japan, the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, and the National Institute for Defense Studies of the Ministry of Defense are available for viewing.

アジ歴の成り立ちを教える

Search our database (To search by reference code, click "Advanced Search →" and change 'All' to "Reference Code.")
(Advice for using the database in English.) (Japanese-English Translation Collection)

please enter keyword(s) for search

Search Guide About Usage of Document Images **Advanced search →**

JACAR Contents





share

中心概况与特色

什么是亚洲历史资料中心

亚洲历史资料中心是通过互联网,在电脑画面上提供日本政府有关机构所保管的亚洲历史资料（原资料）的电子资料中心,是由国立公文书馆所运营的。这里所说的亚洲历史资料是指作为关于近代和现代我国与亚洲近邻各国关系的历史资料而十分重要的我国的公文档案和其他纪录。

本中心事业的目的是,为使需求这些资料的人士能够容易和简便地使用,在推进资料的数据库化的同时,促进日本与亚洲近邻各国的相互理解。

亚洲历史资料中心的设立经过

1994年8月31日,当时的日本首相村山富市为纪念下一年将迎来的战后50周年,发表了关于《和平友好交流计划》的谈话,该计划中提到了“将研究设立一个人们很早就指出其必要性的亚洲历史资料中心的问题”。

为此,关于本中心具体事宜的探讨,被委托给由15名富有学识和经验的人士组成的有识之士会议进行。有识之士会议根据对国内外的实际情况进行的调查和从有卓见的人士那里听取的意见,以及广泛征求的要求和希望,于1995年6月30日建议,设立一个以“广泛而全面地收集有关日本与近邻各国之间的近代和现代历史资料,并将其提供给国内外的研究人员和普通人士”为基本目的的中心。

日本政府接受了有识之士的这一建议,为设立这一中心开始了具体的探讨,并于1999年11月30日在内阁会议上做出决定,作为“整理和公开亚洲历史资料事业”的一环,通过互联网提供日本政府有关机构所保管和公开的“亚洲历史资料”。 经过2年的筹备,亚洲历史资料中心作为国立公文书馆的一个部门,于2001年11月30日成立。

本中心根据内阁会议决定,首先决定对战前公文档案的主要收藏机构国立公文书馆、外务省外交史料馆、防卫厅防卫研究所图书馆收藏的从明治初期到太平洋战争结束为止的有关亚洲的资料进行电子化,并在互联网上提供。据推测,仅这些机构收藏的资料,以图像数据计算,就将超过2800万个图像。

在亚洲历史资料中心可以看到的资料

share

센터의 개요 및 특징

아시아역사자료센터란

아시아역사자료센터는 인터넷을 통하여 국가 기관이 보관하고 있는 아시아 역사자료（원자료）를 컴퓨터 화면을 통해 제공하는 전자자료 센터이며 국립공문서관에서 운영되고 있습니다. 여기서 말하는 아시아 역사자료란 근현대에 있어서의 일본과 아시아 근린 제국 등과의 관계에 관련된 역사자료로서 중요한 일본 공문서, 기타 기록을 뜻합니다.

아시아역사자료센터의 사업은 이러한 아시아 역사자료를 필요로 하는 이용자가 가벼운 마음으로 간편하게 이용할 수 있도록 데이터 베이스화를 추진하는 것과 동시에 아시아 이웃 여러 나라들과의 상호 이해를 촉진할 것을 목적으로 하고 있습니다.

아시아역사자료센터의 개설 경위

1994년8월31일, 당시 무라야마 도미이치 총리는 이듬해에 맞이하게 될 전후 50주년을 기념한 「평화우호 교류계획」에 관한 담화를 발표하면서 그 계획 가운데 「이전부터 필요성이 지적되어온 아시아역사자료센터의 설립을 검토하고자 한다」고 언급하였습니다.

이를 기초로 센터 설립에 관한 구체적인 검토가 각계의 전문가 등이 포함된 15명으로 구성된 지식인 회의에 위임되었습니다. 지식인 회의는 국내외에서의 실상 조사, 전문가들의 의견 청취 그리고 일반인들을 통해 널리 수집한 요망 사항 등을 근거로 1995년 6월30일에 「일본과 아시아 근린제국 등 사이의 근현대사에 관한 자료 및 자료 정보를 폭넓게 치우침없이 수집하여 이를 국내외의 연구자를 비롯한 일반에게 널리 제공할 것」을 기본 목적으로 하는 센터 설립을 제언하였습니다.

이같은 지식인 회의의 제언을 받아 일본 정부는 센터 설립을 위한 구체적인 검토에 들어가 1999년11월30일에 「아시아역사자료 정비사업」의 일환으로 일본의 각 국가 기관이 보존, 공개하고 있는 「아시아 역사자료」를 인터넷을 통해 제공할 것을 각의 （내각회의） 결정 하였습니다. 아시아역사자료센터는 2년간의 준비 기간을 거쳐 국립공문서관의 하나의 조직으로서 2001년 11월30일에 개설되었습니다.

아시아역사자료센터는 각의 （내각회의） 결정에 근거하여 우선 제2차 세계대전 이전의 공문서의 주요 소장기관인 국립공문서관, 외무성 외교사료관, 방위청

share

③生成AI対策をアジ歴で練る

※AIのなかでも生成型・応答型は、学問の方法論的に、歴史学や記憶研究（記憶の継承）に重大で深刻な問いかけを投げかけている。
この10年間が正念場。

歴史学Ⅱ　課題レポート

史料に基づき、自分の問いを立てて論じる

提出形式	Word ファイル（.docx）。ファイル名は「学籍番号_氏名.docx」とすること。
字数	1,200〜1,500 字（本文のみ。史料情報・参考文献リストは字数に含めない）。
締切	11 月 12 日（木）13 時〜11 月 25 日（水）23:59　厳守。理由の如何を問わず、期限外の提出は受理しない。
提出先	ユニパ「課題」に提出。

評価基準はルーブリック参照。課題レポート提出後、積極的に反転授業をしたい旨を Q&A で伝えたうえで実行できた履修生に対してより高い評価を与える。

課題内容

以下の五つの大テーマから一つを選び、自分自身の問い（リサーチ・クエスチョン）を立てたうえで論じなさい。その際、アジア歴史資料センター（アジ歴／JACAR）の史料を最低 1 点用いてスクショして上記のワードファイルに統合すること。史料名・Ref コード・URL を明記。

問いは、授業で示された「問い」をそのままコピペして使うのではなく、そこから派生させて自分自身の言葉で立てること。史料は問いに答えるための根拠として使用し、史料が何を語り、何を語っていないかについても言及すること。

④アジ歴史料から授業を立ち上げる

予習・復習・反転授業に活用

事例：
満州事変

資料内容

■満州事変と国際秩序からの離脱（1931～33）



問い　なぜ「戦争」ではなく「事変」と呼ばれたのか。

主な事項　柳条湖（りゅうじょうこ）事件、関東軍の独走、満州国、リットン調査団、国際連盟脱退。

素材　**アジ歴史料：**　アジア歴史資料ラーニング

アジア歴史資料ラーニング
デジタル資料で学ぶ日本とアジア

年表一覧

年	国内の動向	対外関係の動向	近隣地域の動向	世界の動向
1926				
1927	3/15 金融恐慌が起こる 4/22 モラトリアムが実施される 6/1 立憲民政党が組織される	5/28 第一次山東出兵が行われる		
1928		5/3 済南事件が起こる 6/4 満洲某重大事件（張作霖爆殺事件）が起こる 8/27 不戦条約が調印される	12/29 中国国民党による中国統一が完成する	
1929			7/19 中ソ戦争が勃発する	10/24 世界恐慌が起こる
1930	1/11 金解禁が実施される 4/25 統帥権干犯問題が起こる 1/ 昭和恐慌が起こる	4/22 ロンドン海軍軍縮条約が調印される	10/27 霧社事件が起こる	
1931	4/1 重要産業統制法が制定される 12/13 金輸出が再禁止される	9/18 満洲事変が起こる		
1932	2/ 血盟団事件が起こる 5/15 五・一五事件が起こる	1/28 第一次上海事変が起こる 9/15 日満議定書が調印される	3/1 満洲国が建国される	

1931年9月18日

満洲事変

まんしゅうじへん

画像を見る

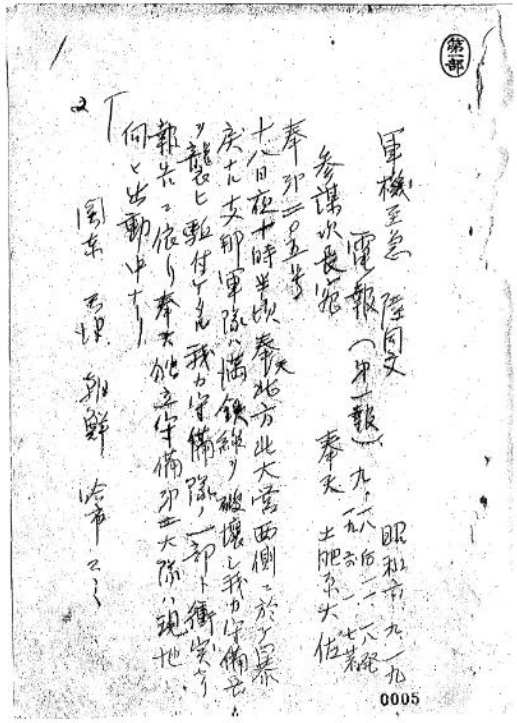
解説

九・一八事変とも。
柳条湖事件から満洲方面を武力占領したことをいう。
満洲事変の契機は、南満洲鉄道の線路を爆破した1931年9月18日に起きた柳条湖事件による。事件計画者は、関東軍参謀石原莞爾と高級参謀板垣征四郎であった。彼等は、柳条湖事件が中国側の仕業とすることで、東三省への軍事行動を試みる。一方、第二次若槻礼次郎内閣は不拡大方針をとり、関東軍の増援要請を拒否する。だが、朝鮮にいた林銑十郎率いる軍は、同年9月21日に独断越境する。林の行動に対して、内閣は最終的に事後承認を与える。関東軍の軍事行動は止まらず、張学良の本拠地である錦州を10月8日に爆撃をする。最終的に、満洲国が隣接している熱河省を1933年に占領する。
中国国民党は、「安内攘外」政策を採り、軍事対決を回避した。日本国内では、軍を押さえる方法をめぐって若槻首相と安達謙蔵内務大臣の意見対立によって、閣内不一致になり1931年12月13日に総辞職した。

関連語

・立憲民政党
・塘沽停戦協定

share



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

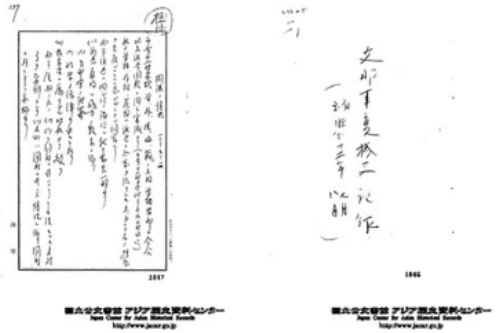
次回までの予習として活用

１．日中戦争の展開と写真週報の創刊

1937年7月、北京郊外の盧溝橋付近で起こった日中軍事衝突（盧溝橋事件）を契機として、日中戦争が始まりました。当初は局地的な軍事衝突で、日中双方とも不拡大方針が取られましたが、逐次戦力が投入されて戦線が拡大、戦争は長期化していきました。
そうしたさなか、内閣情報部により『写真週報』が刊行されます。同誌では戦場や占領地、前線の兵士の様子などを報じるとともに、国策に関するさまざまな記事を掲載していきました。

【資料１】盧溝橋事件の発生

「丙　支那事変機密記録（自昭和１２年７月至昭和１２年８月）（１）」（Ref. C14120633300）1～2画像目



1937年7月7日夜に発生した盧溝橋事件は、現地で停戦協定が成立しましたが、7月11日の閣議で関東軍と朝鮮軍（満洲・朝鮮の日本軍部隊）、次いで内地師団（国内の日本軍部隊)の派兵が決定され、戦争は長期化していくこととなります。
この資料は当時、海軍の中堅将校が作成していた記録で、華北派兵を決定した7月11日の閣議の様子から記述が始まり、海軍側

予習 | PREPARATION

アジ歴で昭和戦前期を調べる

アジ歴活用のトレーニング

次回までに、アジア歴史資料センター（アジ歴）で史料を一点えらんでくる。

1 アクセスする
アジ歴のサイト（https://www.jacar.go.jp/）を開く。

2 キーワードで探す
「満洲事変」「柳条湖」「満洲国」「国際連盟」など。※史料表記は「満洲」。

3 史料を一点えらぶ
昭和戦前期（1926〜1945）の一次史料を一つ選び、Ref.コードを控える。

4 一言メモ
誰が・いつ・何のために作った文書か。気づきを短くメモする。

表記に注意
現在は「満州」と書くが、当時の史料の多くは「満洲」。検索では両方ためすとよい。

コメントペーパー

本日の論点

アジ歴を活用する四つの意義

1 **アジア歴史資料センターは、成り立ちそのものが教材になる**

アーカイブもまた歴史的な産物である

2 **解釈の前に、史料を見る**

「立場」ではなく「史料を読む力」を評価する

3 **科目の射程と収録範囲が重なる**

幕末から1972年までを一つのアーカイブで

4 **無料・登録不要で自ら調べられる**

ネット環境とデバイスだけあれば、あなたの机の上がもっとも史料に近い！！！

2026年度 教養科目「歴史学Ⅱ」学生アンケート（2クラス統合）

アジア歴史資料センターは学修に役立つか

設問「アジア歴史資料センターは学修に役立ちますか？ 自由に感想を述べてください。」への自由記述を、肯定的評価・否定的評価・その他に分類して集計

379件
有効回答（対象551件・未記入172件を除く）

97.1%
肯定的評価（368件）

3件
否定的評価（0.8%）

クラス1（186件）とクラス2（193件）を統合。重複していたクラス1のコピーファイルは1回分として計上

全体の評価分布（n=379）

ほぼ全員が「役立つ」と回答



肯定的評価 97.1%（うち留保付き15.5%）

否定 0.8%／その他 2.1% →

区分	クラス1	クラス2	合計
肯定（留保なし）	162	149	311（82.1%）
肯定（留保付き）	19	38	57（15.0%）
否定	2	1	3（0.8%）
その他	3	5	8（2.1%）
有効回答	186	193	379

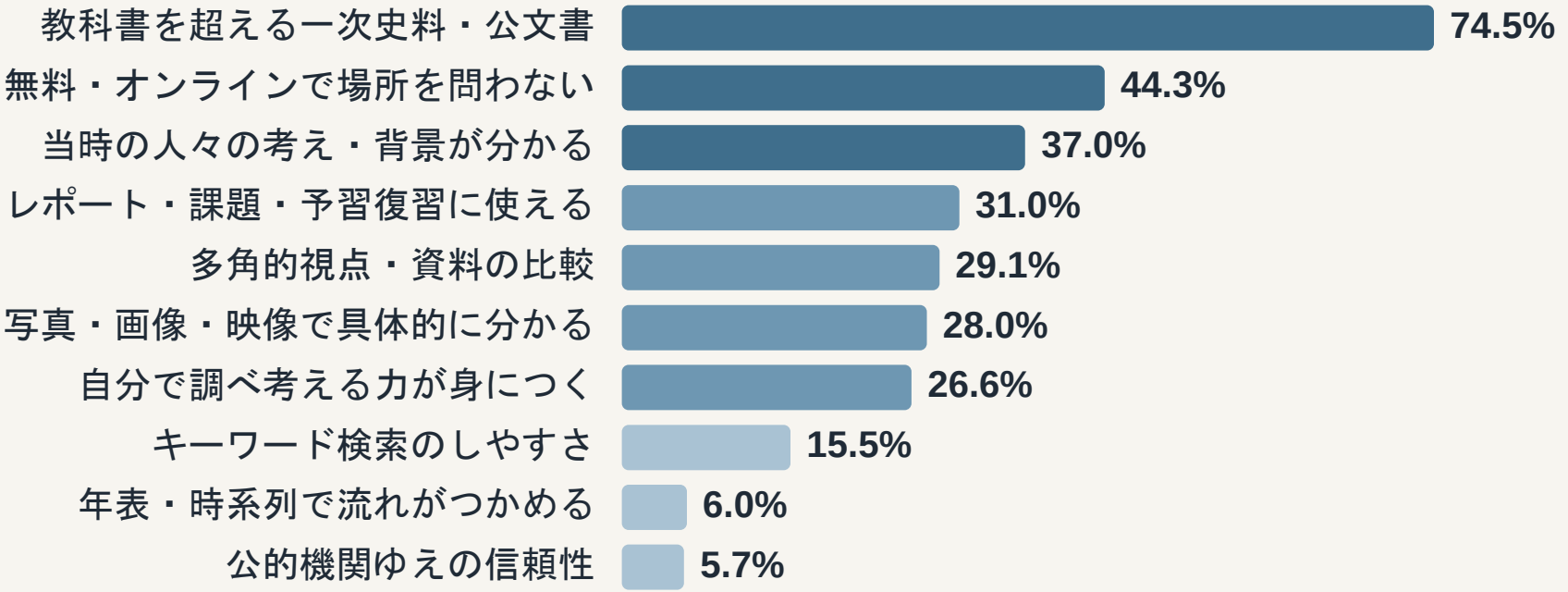
クラス差

肯定率はほぼ同じ（97.3%／96.9%）だが、難しさに触れた「留保付き」はクラス2が約2倍（10.5%→20.3%）

分類基準：「役立つ」と述べたものは難点の指摘を伴っても肯定（留保付き）に、「役立たない」趣旨を明言したもののみ否定に分類。「留保付き」の比率は表では有効回答比、上の帯では肯定回答比

肯定的評価の理由（n=368、複数該当）

「教科書の先にある当時の記録」が最大の魅力



キーワード検出による概数。1件の回答が複数の理由に該当するため合計は100%を超える

留保付き肯定57件・否定3件の理由

難所は「読めない」と「探せない」

読解の難しさ　37件

古い言葉・候文・崩し字、背景知識の不足。辞書や生成AIで補うとする回答も

検索・探し方　17件

検索語の絞り方に癖、結果が多すぎてどれを見ればよいか分からない

注目点　「史料批判」を意識するようになった　19件

「誰が・何のために記録したか」「本音が全て記されてはいない」「国民は何を知らされていたか」など

留学生の視点　13件

言語切替や英語版を評価する一方、旧字体・漢字に苦労。中国で学んだ歴史と日本側史料の比較に意義を見る声も

内訳は複数該当あり。否定3件の理由も「探しにくさ」「内容の難しさ」「自分で使う必要性への疑問」

読み取りの留意点と授業への示唆

高評価を「使える力」につなげるために

留意点

設問が「役立ちますか？」という是非型で、授業内の提出でもあるため、肯定に傾きやすい

「教科書だけでは分からない」型の定型表現が145件（38.3%）。文面の均質性が高く、利用経験の深さは測りにくい

授業内の動画・NHK映像・博物館見学など、他の教材と混同した回答が数件

授業への示唆

読む支援：候文・旧字体の読み方を授業内で実演する（留学生への配慮を含む）

探す支援：検索語の立て方・絞り込みを具体例で手順化し、授業資料からの導線を示す

考える支援：自発的に現れた史料批判の視点を、課題設計で意識的に伸ばす

2026年度「歴史学Ⅱ」受講生アンケート（2クラス、有効回答379件）より作成

ご清聴どうもありがとうございました。